

<b>第1回奈良市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会の意見の概要</b>	
開催日時	平成30年8月6日(月)午後1時30分から午後3時15分まで
開催場所	奈良市役所 中央棟 6階 第1研修室
意見等を求める内容等	奈良市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について
参加者	出席者4人
開催形態	公開 (傍聴人0人)
担当課	総合政策部 総合政策課
<b>意見等の内容の取り纏め</b>	
<p>事務局から総合戦略効果検証全体の概要を説明した後、個別の関連事業について質問及び意見を求めた。また、総合戦略の目標指標の変更案及び総合戦略の残りの計画期間における今後の取組について、意見を求めた。</p>	
<p><b>総合戦略関連事業の評価について</b></p>	
<p>◎子育て・教育</p>	
<p><b>【5. 子育て世代支援PR事業】(子ども政策課)</b></p>	
<p><b>山本氏</b></p>	
<p>子育て世代のニーズ調査の結果、子どもを連れて参加できるイベントや場所の情報のニーズが非常に高かったとのことだが、こういった情報はどのように収集されるのか。</p>	
<p><b>子ども未来部長</b></p>	
<p>把握しているセンターや児童館などと定期的にやり取りをし、イベントの情報を収集している。情報を把握したものから随時、ホームページに上げている。</p>	
<p><b>山本氏</b></p>	
<p>子育て系のメディアとの連携により、生きた情報が取れるのではないかと。</p>	

## 【6. 子育て短期支援事業】(子育て相談課)

### 藤沢氏

第一に、委託先がこんなにたくさんあって把握しきれているのか、また現場を把握するための人材は足りているのか。

第二に、委託先や補助金交付先の現場にどれくらいの頻度で足を運んでいるのか。

第三に、委託先からは「委託された内容を実施した」という結果の報告が多いと思うが、逆に委託先から市役所に対して相談があり、その中で気になったり、皆で共有すべき課題や要望があったならば、教えてほしい。

### 子育て相談課長

契約の時や、日ごろケースを委託する時には個別にヒアリングさせていただいている。

また、年に1回程度は現場を訪問しており、単に実績報告という形だけではない。「各ケースの状況をきちんと踏まえてから、ショートステイを委託するまで」をもっとスムーズにやり取りするべきという意見をもらっており、担当者間で改善につなげている。

## 【18. 3～5歳児の幼児教育の機会拡充】(こども園推進課 保育所・幼稚園課)

### 伊藤氏

園によって満足度にばらつきがあるようだが、どこに預けても満足・安心できるような内容にしてもらいたい。

## 【24. 学習指導推進】(教育支援課)

### 山本氏

今のところ「学びなら」を活用する上で、積み上げ型の学習である算数科が最も適しているとのことであるが、今後は他の教科についても展開していくよう、検討をお願いしたい。

## 【32. 高等学校教育の振興】(学校教育課)

### 伊藤氏

就学前から高校までを通して、市の教育方針・教育のあり方の中で考えていただければと思う。

### 山本氏

表現力、思考力・判断力をも養っていくことが事業目的であるので、KPIの「自分の意見が言えるなど、主体性が身についた」という文言自体をもう少し深く検討する必要があるのではないかと思う。例えば、「自分で考え、自分でまとめ、自分で意見が言える」というような表現はどうだろうか。

**【33. 女性の活躍推進】(人事課)**

藤沢氏

上の方に理解があるかどうか非常に重要なので、部長クラス又はそれ以上のクラスの方への研修に女性活躍推進のテーマをぜひ入れてほしい。

**【36/75. 定住促進事業】(広報戦略課)**

山本氏

観光だけでなく、奈良には豊かな資源があり注目もされている。それを外に向けてビジネスとして発信していける芽がたくさん生まれてきていると思う。ビジネスで訪れる方も、交流人口には入ってくる。定住促進事業の中での交流人口という意味ではこの指標で間違いないと思うが、交流人口を増やすためには観光分野や産業促進などのほかの分野との連携を検討してほしい。

**【37. 就労支援の促進】(産業政策課)**

山本氏

市内の生活保護受給者の数(約 5,500 世帯)を念頭におけば、もう少し対象を広く取った事業にすればよいのではと考える。

**【38. 女性の就労支援事業】(産業政策課)**

伊藤氏

結婚・出産等により離職した女性の再就職を支援する就労支援について、最初の相談をされた後のフォローが重要かと思う。スケジュールも考慮の上、事業を進めていってほしい。

藤沢氏

就労につながるためには、セミナーに来られた人が何かハードルを越えた、あるいは市役所がこのような政策をしてくれたからできた、家族の理解があったなど具体的な理由があるはずである。そういう具体的なところでまで、職員が情報として触れられるようになっておくと、さらに数字が上がると思うので、ぜひもう少し歩み寄ってもらえればと思う。

◎観光・経済

**【39/53. コミュニティビジネス支援事業】(産業政策課)**

田口氏

奈良町における取組にもつながってくると思う。こういったコミュニティビジネスの支援は大切だと思うので、引き続きお願いしたい。

**【40～52. 観光分野全般】(観光戦略課 奈良町にぎわい課)**

**田口氏**

色々な方がいろいろな計画を作って進めているが、どういう人にどういうアプローチで進めるか、という観点が欠けがちである。売り出し方、伝え方のストーリー性（モノ）とアプローチの両面が必要である。施策として横の連携を取って進めるとより効果的であると考えている。

**【41. 歴史まちづくり法を活用した事業】(奈良町にぎわい課 景観課)**

**田口氏**

せっかくの資源を活用できるよう、改修と新築が両方出来るという制度を利用者に分かりやすく発信することが必要だと考える。

**【42. 観光資源の充実による観光客誘致】(観光戦略課 奈良町にぎわい課)**

**田口氏**

なら燈花会もなら瑠璃絵も夜のイベントであるが、その日のイベント以外に夜にこちらに来ていただけるような定常的、通年のイベントがあれば、あるいはこの後考えていることがあれば教えてほしい。

**観光経済部長**

閑散期対策として、なら燈花会やなら瑠璃絵を実施している。他には、去年から奈良町を中心に「ならまち遊歩」事業を8月の燈花会のあとに実施している。検番場を奈良町の中で整備したので、そこで外国人向けに文化を鑑賞していただき、体験もしてもらうなどの展開が考えられる。世界遺産の元興寺を利活用して怪談の講談や落語をするという事業も実施している。

**市長**

直近のデータでも月次の観光客入込数の繁閑差が薄くなってきている。

**【49. コンベンションの誘致 50. 東アジアとの交流を活かした観光力強化事業】  
(観光戦略課 総合政策課)**

**田口氏**

件数や目標も大事だが、コンベンションの誘致の中で誘致先の方からいただける情報、あるいは外国人観光客に直接いただける情報のような、満足度や期待度といった重要なデータを次の誘客につなげるというような取組が必要である。

また、コンベンションは必ずしも大きくないといけない、ということではないと思うので、小規模だが濃密な会議をしたいといったニーズを上手くピックアップできればよい。

### 【55. 文化活動への支援】(文化振興課)

山本氏

Twitter は言葉で伝えるが、例えばインスタグラムは写真（ビジュアル）で伝えるメディアである。言葉の壁を越えようとするとき色々なコストがかかってくるが、写真だとその点、インパクトが伝わる。特にぱっと見て、「直接見たい」、「行きたい」と思わせることがこういう事業では大事かと思う。インスタグラムの活用も、ぜひ検討してほしい。

### 【62. 奈良の食プロジェクト事業】(農政課)

山本氏

例えば、最近、道の駅のようなところで、その産地の野菜や産物を売ることが全国的に活発に行われている。飲食店もそうであるが、奈良市産の食材を販売する場所を増やしていくことも必要だと考える。奈良阪の旬の駅に行くと、奈良市内の飲食店の方がたくさん来ておられる。飲食店の横の情報が手に入ったりするが、そういう場所がもっと増えればよいと思う。

### ◎安全・健康長寿

### 【70. 健康長寿施策推進のための基礎調査をふまえた国保ヘルスアップ事業】(医療政策課)

藤沢氏

事業に参加した方のうち、さらに悪化していない人の割合として 100%の実績が維持されているが、実数を見ると事業の参加者自体が少ない。今後の方策のところは、かかりつけ医との連携、とあるが、その連携とは具体的にどういうことをするのか。

また、予防事業と啓発事業はそれぞれどのような活動なのか。

### 健康医療部次長

かかりつけ医との連携として、かかりつけ医から糖尿病腎症で重症になり、今後人工透析になるだろうという方を紹介いただき、その方に啓発・案内の文章を出させてもらっている。事業対象者が少ないのは、データヘルスをチェックした時点で、かなり重度で予防により人工透析に移行しなくなる方を拾い上げているためである。啓発についてはかかりつけ医だけでなく、医師会とも連携して実施している。

**【77. 公園管理運営】(協働推進課 公園緑地課)**

**藤沢氏**

管理委託先にはどれくらいの頻度で訪問し、課題などを把握しているのか。

また、今後管理する公園が増えていく状況の中、管理委託先からどのような課題提起や提案がなされているのか。

**都市整備部長**

増えていっている公園というのは、主に開発によって帰属を受けているものである。民間委託は普通の業者に管理を委託するような内容であり、草刈りや樹木の伐採・剪定を実施している。

**市長**

奈良市内に公園が約 570 あり、1 園あたり約 30 万円の管理料である。他の中核市と比べると、奈良市の公園管理費はかなり削減しており、十二分にお金をかけていない状況である。そういう中で、ボランティアの方に極力お手伝いいただくということで、費用を抑えながら住民参画もしていただいているという状況である。

## 総合戦略における目標指標の変更

奈良市まち・ひと・しごと創生本部で取りまとめた変更案について、質問及び意見を求めた。

### 藤沢氏

- ①「想定より実績値が伸びなかったため、目標値を下げる」「想定より実績値が伸びたので、目標値を上げる」というのは、いかがなものか。何のために KPI があるのかという原点に戻った時に、そのような安易な見直しでよいのか。
- ②重点目標を上げていくことが最終的な目標なのだから、後半の期間を使って、今ある KPI がそれぞれどれだけ重点目標に寄与しているのかを分析することが重要である。寄与してなくて実績が下がっている事業については KPI をやめてしまうのもよいし、寄与している事業については KPI を強化したり、新しい KPI を立てて細かく見ていく必要があるだろう。

### 伊藤氏

総合戦略の策定時には 5 年先のことが不確定な中で、KPI の設定をしている。最初に設定した KPI の数字を上げ下げするのではなく、KPI をそのままにして、事業の進捗を説明でき、過去の実績値も把握している指標を新たに設定するという考え方はどうか。

### 市長

事業実施時に決めた方向性がぶれたり、方針を譲ったりするような見直しは避けるべきであるが、事業を進める上で設定した KPI や数値がフィットしないということはあると思う。間違いに気付いた段階で正さなければ、間違ったフォーマットのまま事業を進めることになってしまう。別の KPI を設定した方が、より公益性が高まるということもあると思うので、そういう場合には臆することなく KPI を変更してもよいのではないか。

### 田口氏

例えば「歴史まちづくり法を活用した事業」においては、制度が変わっていく中で当初設定した平成 31 年度、平成 32 年度の目標を達成することは現実的ではないと聞いている。数字だけ見ると目標を達成できそうにない事業だが、数字には表れていないがエリアを広げて新しいことをやったりもしている。そういう部分に関しては、同じ指標で深掘りというよりは事業の幅が広がっているのだから、幅に合わせて新しく指標を設定してもよいと考える。

### 藤沢氏

後半に向けて、一律で KPI を変更するとなると現場に重い負担がかかる。

## 総合戦略の残りの計画期間における今後の取組について

総合戦略の残りの計画期間における今後の取組について、意見を求めた。

### 山本氏

- ①定住人口、交流人口、関係人口を考える時に住む・観光する・ビジネスで訪れるということが独立してあるわけではない。観光で訪れたところに住むかもしれないし、ビジネスで訪れたところに観光で行くかもしれない。相互が深く関わっている人間の行動であることを考慮して、様々な需要を調査して施策を考えてほしい。
- ②総合戦略の冒頭にある人口ビジョンはいかに人口減少を食い止めるかというビジョンであるが、それを達成することで得られるもっと上位のビジョンがあるのではないかと考える。奈良市としてどのような人に住んでほしいのか、どのような人に来てほしいのかを考える時期に来ている。闇雲に他の市町村との数字上の競争や、数字との戦いを続けると、働いている人たちにとってやりがいのないことになってしまう。どんな奈良市になりたいのかを明確にした上で、資料についてもそのように体系づけていくべきではないか。
- ③「どんな奈良市になりたいのか？」という町のビジョンはもっと明確に言語化し、それを分かりやすく伝えるツールも必要であると考え。町のビジョンがスローガンの言葉になることはよいが、その中で使われる言葉の意味一つ一つ、例えば交流人口の定義を奈良市ではどう考えているのか、といったところを明確にしていくことが必要であり、それがあつた上での KPI や目標数値であると感じる。抽象的な理念ではなく言葉の意味について現実的なところに落とし込む作業が必要であり、それが市のビジョンと一つ一つの事業が結び付くことだと思う。後半の計画期間で検討してほしい。

### 市長

目標があまりに理念的なものになっていけないと思うので、いったん設定している目標が何を実現するための方法論であるのかをしっかりと意識をして数字を取り扱うことが重要である。



## 藤沢氏

①KPIを見て違和感や驚きを感じたところがないか、市長と事務局に質問したい。全体を見渡して、やっているはずなのに結果が出ていない、できていないと思っていたのに意外と結果が出ていたなどの事例はあるか。

### 事務局

基本目標や重点目標の推移を見て違和感を感じたのは、合計特殊出生率である。担当課の方も努力されていると思うが、顕著には数字が上がってこない。複合的な要因があり、ただ事業をすれば合計特殊出生率に反映されるわけではないことは理解しているが、もどかしくもあり違和感を感じる。

### 市長

観光など期待通りのものもあるが、施策によっては成果が振るわないものもある。外部要因で押し上げられているものもあるので、一概には言えないが、力を入れて取り組んだものは成果も伴っているように感じる。

②事業の中でいくつかある委託業務や補助金を支給している業務については、もう少し頻度を上げて現場に行き、現場の方がどのようにして業務を担っているのか、そこにどんな問題があるのか、思ったようなことが起きているのか、問題が改善されているのかを把握することに時間を割いていただきたい。

③既に実施しているアンケート調査以外にも、多様な収集方法や分析方法を用いて現場のデータを分析し、肌感覚を確認してほしい。そうすれば、ビジョンを語る言葉も地に足の着いた具体的なものになるだろう。データと肌感覚をベースにすれば、実際に意味のあるKPIの見直しができる。

④現場も行っていたきたいし、KPIも見直していただきたいが、現場が忙しくなりすぎるのは意図するところではない。1参加者としての意見になるが、KPIについて全て達成することが必要とは思っていない。特に力を入れるところを限定して、現場の負担がただ増えるという結果にならないようにお願いしたい。

## 田口氏

①観光については数字が伸びてきているが、質を高めていくことが必要である。今後、全体の入込客が増加し続けるとは限らないので、全体が減少したとしても選ばれるような場所であることが重要である。そのためには、来られた方の情報、来られた方と接点を持った方からの情報を集め、満足できた点や直すべき点を生かしていくべきである。奈良県来訪者は初回訪日者より、2,3回と訪日リピーターの来訪客が多い傾向があり、既に行ったことのある地域や、例えば歴史的街並みとして頭に描いているイメージと比較され、期待度が上がった状態で奈良を訪れる場合が多いと考えられる。先日、奈良を歩いていた時に、市民の方が道に迷っている外国人の方を身振り手振りで道案内する光景を目にした。こういった交流がなされていることは、来られた方にとって非常に良いことだと思う。そういった、いい情報をピックアップして生かしていってほしい。

②色々な施策が横につながりを持っているので、例えば1つのターゲットに働きかける時に、いくつかの部署で集まってやり方を考えるなどのアプローチが必要だと思う。

## 伊藤氏

①総合戦略の事業期間は2015年～2019年であるが、上位計画の第4次総合計画後期計画の事業期間は2016年～2020年である。総合戦略の事業期間が2020年に終了し、1年を置いて2021年に第5次総合計画がスタートすることになる。基本的な方向性は変わらないと思うが、次に向けた総合戦略の継続性や第5次総合計画との整合性を担保する必要がある。

②数値目標を大きく下回っており目標の達成が不可能な取組については、事業終了年度までに目標を達成する方策を検討する必要がある。目標達成が不可能であっても、どこまでだったら取り組めるのか、というところをはっきりさせておくべきである。

③各事業のKPIが達成できない一つの理由に、各事業がバラバラではなく互いに関連性を持っていることがあると考える。事業間の関連性はどうなっているのか、相乗効果なのか打ち消しあう効果なのかを定性的にでも把握して事業を進めていく必要がある。

④これまでにいくつかの事業について目標指標（KPI）を見直してきたが、見直した結果、最終的によくなったのか悪くなったのかについて評価しておくことが必要である。特に総合戦略の重点項目については、現状を把握し、イメージではなくデータを分析することで改善点を明らかにすることが重要である。

⑤実際に仕事に携わっている職員がモチベーションを持てるということが重要。目標を達成するためだけに仕事をするのではなく、目標を達成することで市民の方の満足度が上がったというようなことが実感できれば、頑張ることができる。

## 市長

①総合戦略を国主導の短期プロジェクトで終わらせないためにも、第5次総合計画との整合性と継続性を担保することは重要である。国としては地方創生や人口減少対策を目的に設定しているが、総合戦略は奈良市の様々な部署で担当している施策をどうマネジメントしていくか、奈良市をどう経営革新をしていくかということにもつながりの深い取組であるので、国の先導の有無に関わらず、奈良市として継続したモニタリングと見直しを行っていききたい。

②事業間の関連性をイメージできるように体系づけることが必要だと思う。規模の大きい組織なので、部署を超えた横串が入りづらい面がある。行政だけでなく民間・NPOなど様々なセクターのどの取組や事象が自分の所管するテーマに影響するのかという視座を持つことが需要である。計画期間の後半については基本的に同じ枠組で進めていくが、同時に次の期間の枠組の作り方・進め方について考えていきたい。総花的になってしまう懸念があるので、できれば分野をもう少し絞り込んで深掘りすることも1つの方策であるように思う。実践的な戦略になるよう、庁内でも議論を深めていきたい。

## 副市長

①懇話会を通じて、改めて、現場に足を運び、感じ、目を見たことを成果に結び付けることが必要だと感じた。KPIは必要に応じて変更すべきである。